

2度目の交流
平成21年2月1日～5日



第2回目の交流は、平成21年。生徒6人と引率者3人を受け入れました。

このときには、登別中学校での交流に加えて、新たに北海道登別明日中等教育学校にも足を運び、家庭科の調理実習で交流を図りました。

『イメージジョン教育』（※）を取り入れている同校では、日本語を使わずに英語で調理実習が進められました。



▶英語で進められる調理説明に真剣に聞き入る両校の生徒たち

両校の生徒たちは、協力しながら和気あいあいと調理を進め、出来上がったスパゲティを、学校給食として頂きました。

イメージジョン教育
学習者が学んでいる外国語で教科の全部または一部を教える早期外国語教育法

▶英語で互いに話し合いながら和やかに調理は進められました



3度目の交流
平成22年2月1日～5日



第3回目の交流は、今年2月に行なわれました。

11人の生徒がマイ・ウエーブ・クラブの顧問など3人の教師に引率され登別を訪れました。

過去2年間交流を続けているコロポックルの森（幼保一元化施設）を今回も訪問し、園児とゲームやダンスで楽ししいひとときを過ごしました。

どの園児も、外国の方と仲良くなることは得意のようで、すぐに打ち解けていました。郷土資料館では、『そば打ち』を体験しました。



▶コロポックルの森では生徒と園児がすぐに打ち解けて仲良しに

サイパンではそばやうどんをよく食べるとのことですが、そばを打つのは初めてです。そば粉が指にくっついたり、丸めたそば生地が柔らかすぎたりと、苦戦の連続でしたが、郷土資料館ボランティアグループ・SLGのメンバークのサポートを受けて、何とか『そば』が出来上がりました。

サイパンでは具をたくさん入れた温かいそばが主流のようですが、初めて作ったそばを冷たい『もりそば』で試食

し、美味しいと喜んで食べていました。

3回目の今年は、公共施設の見学もプログラムに組み入れ、クリンクルセンターと市民プールを訪問しました。



郷土資料館でのそば打ち（上段）や登別伊達時代村でのお手玉作り体験（下段）で日本の文化を学びました



ごみの処理やリサイクルの仕組みがサイパンとは随分と違うようで、焼却炉の様子に興味深げに見入っていました。市民プールでは、プールの規模や障がいのある方が車いすのまま入ることができるなど、充実した施設に感心していました。